

# 川崎市域の注目すべき種子植物

吉田 多美枝<sup>\*1</sup>

The Notable Seed-plants in Kawasaki-City

Tamie YOSHID<sup>\*1</sup>

## I はじめに

神奈川県植物誌(1988)の改訂版出版が神奈川県植物誌調査会により2001年に予定された。これにともない同誌に未記載の植物の補充と、神奈川県植物誌(1988)に記載されている植物の確認作業が1996年に開始された。川崎も神奈川県植物誌調査会会員のうち、川崎市内での調査活動希望者により川崎ブロックを構成し、川崎市青少年科学館に事務局を置き参加することになった。

ただし、川崎市青少年科学館では川崎市植物誌出版の基礎資料の収集を目標としたため、行政区ごとに生育する野生植物全種の採集を目指し、採集した資料は川崎市青少年科学館の収蔵庫に収め、神奈川県植物誌調査会にはデータを提供することとした。

## II 調査地の特徴

川崎市は神奈川県の東北端に位置し、東京都と横浜市にはさまれた東西に細長い地域で、東京都とはおもに多摩川を境界とし、横浜市とはおおむね鶴見川と多摩丘陵に境をもつ。

行政区は東から川崎・幸・中原・高津・宮前・多摩・麻生の7区に別けられている。7区のうち宮前区と麻生区を除く5区は多摩川に接している。



図1 川崎市行政区分図

### 1. 川崎区

海岸の埋め立て地に埠頭と工業地帯があり、内陸に住宅地と商業地がある。海岸の埋め立て地や埠頭、周辺の空き地、多摩川河口などに海岸植物の群落が点在している。また埠頭や工業地帯では車両・積み荷の出入りが多

\*1 かわさき自然調査団

いため帰化植物が多く見られるのも特徴的である。

### 2. 幸区

川崎駅周辺の商業地と、高層建築の多い過密な住宅地で構成されている。しかし区内には古くから加瀬山の呼び名で親しまれている夢見が崎公園がある。夢見が崎公園は多摩丘陵の東端の飛び地として、海拔32mの低い丘ではあるがその斜面には多彩な植物がみられる。

### 3. 中原区

主として住宅地が広がる地域であるが一部に工業地もみられる一方、等々力緑地及びその周辺に点在する寺院には緑が多い。また多摩丘陵の東端がこの辺りにあるため、丘陵の斜面にはところにより雑木林もみられる。さらに丘陵の裾には、丘陵地からしみだしてくる水による小規模な湿地もみられる。このような場所では丘陵の植物のほか湿地の植物もみられる。

### 4. 宮前区・高津区

神奈川県植物誌(1988)(以下県植物誌1988)当時は1区であったものを分区して2区とした。この地区は主として住宅地の広がる地域であるが、わずかに畑地が点在する。両区にまたがる緑が丘公園、それに連なる県立東高根森林公園は緑地として貴重である。

### 5. 多摩区・麻生区

4と同様分区した地域である。多摩区は住宅地が主たる地域であるが、一部に緑地が点在し、僅かではあるが水田も見られる。また区内の生田緑地は都市のなかにながら、里山の景観を比較的良く保った公園である。ここでは僅かであるが絶滅危急植物がみられるが、近年一部に建造物が建つなどその将来が危惧される。その他向ヶ丘遊園及びその周辺、小沢城址緑地保全地区と、隣接する読売ランドなども緑地の役割をになっている。

麻生区は丘陵地の多い、川崎市内では最も自然環境の良い地域である。果樹園や水田・畑も多く、丘陵地には雑木林が続いている。しかし近年宅地造成が盛んに行われ、ここでも緑地は急速に減少している。

## III 調査の方法と資料の保存

上記の行政区画7区に生育する野生種子植物全種を区毎に採集した。採集は主として神奈川県植物誌調査会員の川崎ブロック登録者の一部が当たったが、他ブロック

3属者および会員以外の協力もあった。

採集した資料は、乾燥後ラベル（採集データ：採集地・採集地コード NO・採集年月日・採集者名・生育環境等記入）を添付して青少年科学館に納入した。納入された資料は筆者が同定し、青少年科学館・川崎自然調査団植物班員による台紙貼り・ラベル貼り・科属コード NO 記入等の作業を経て、コンピューター登録を行い、これら全ての手続きが終了した標本は、科属コード NO 毎に分けて川崎市青少年科学館植物収蔵資料として、収蔵庫に保管することとした。

#### IV 調査の進行状況

1998年12月末日までに1996年度採集分の整理が終わり、1997年度分はわずかを残すのみとなった。整理した標本はすべて収蔵庫に収納した。

—表1—

1996年度・1997年度収蔵標本内訳

	年 度	川 区	幸 区	中 区	高 区	宮 区	多 区	緑 区	合 計	
採 集 数	1996年	308	255	4	355	570	634	449	2,570	
	1997年	113	106	362	469	409	279	722	2,460	
種 数	1996年	208	164	4	237	352	274	354		
	1997年	88	56	259	226	193	167	493		
計	採集数	1996年	416	361	366	824	979	913	1171	5,030
	種数	1997年	296	220	263	463	545	441	847	

註 生田緑地植物リスト1994を使用したため、今回は採集対象からはずした

#### V 本調査における川崎市域の注目すべき植物

各区全域にわたる調査がおこなわれた結果、今回川崎市青少年科学館の収蔵庫に収納した標本の中に、さまざまな要因から注目を要する植物がみられた。そのうちの主なものを以下にとりあげる。

##### 1. 神奈川県植物誌（1988）に未記載の植物

##### 1) コケミズ *Pilea peploides* (Gaudich) Hook.

et Arn. イラクサ科

山地の湿地などに生える高さ 5-15cm の 1 年草。葉は長さ 5-10mm の軟弱な植物。県植物誌 1988 では見つかっていないが、その後庭・植木鉢の中などに生育の記録がある。川崎の生育地は植物班の小松ゆき氏により報告されたもので丘陵の裾に建てられた 5 階建ての団地の庭の、普段は人の立ち入らない、日当たりの悪いところに広範囲に生育していた。温暖化との関連も考慮に入れたい。分布域：関東以西。

標本：高津区新作（吉田多美枝 1997.6.2） — 図 2 —

##### 2) コイヌガラシ *Rorippa cantoniensis* (Lour.)

Ohwi アブラナ科

水湿地に多い 1 年草または越年草。高さ 10-40 cm。花は黄色で上部の葉のわきに 1 個ずつつき、ほとんど

柄がない。果実は長さ 6-10mm。川崎で 2 か所にみられたが、いずれも河川敷である。分布域：関東以西。  
標本：中原区宮内 1 丁目（高橋英 1996.5.19）・多摩区登戸新町（吉田多美枝 1996.9.6） — 図 3 —

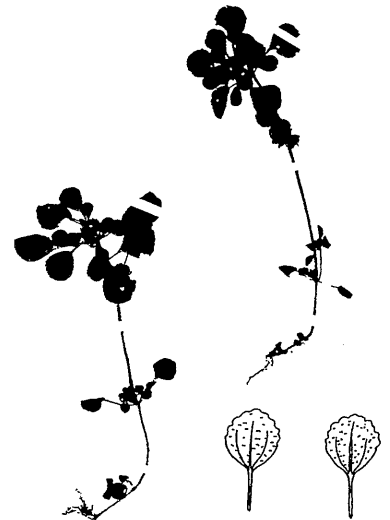


図 2

コケミズ



図 3

コイヌガラシ



図 4

ヒメトラノオ

3) ヒメトラノオ *Pseudolysimachion rotundum*

(Nakai) Yamazaki var. *subintegrum* (Nakai) Yamaza

-ki f. *petiolatum* Yamazaki ゴマノハグサ科

林縁や草地に生える多年草のヤマトラノオの葉が細く、基部が短い葉柄状になるもの。県植物誌 1958 に箱根・丹沢のみであった。今回麻生区で生育が確認された。分布域: 中部・関東地方

標本: 麻生区黒川 (広沢毅 1996.9.1 落葉広葉樹林内)

- 図 4 -

- 以上在来種 -

4) ユメノシマガヤツリ *Cyperus congestus* Vahl

カヤツリグサ科

オーストラリア・南アフリカ原産の帰化植物。東京都江東区の埋め立て地夢の島で見つかり、学名が明らかにされ (浅井康宏・小山鐵夫, 1985), このとき和名が付けられた。荒地 (水湿地) 等に生える多年草。草丈 30-70 cm ときに 1 m 以上になり、株元より直立し叢生する。川崎市東扇島埋め立て地にも群生の報告がある (尾崎昭則 1990)。今回見つかった個体は生い茂る草原の水たまりの中に生えていたが 1 個体のみであった。この場所は 1997 年には倉庫が建設されていた。

標本: 川崎区東扇島 (吉田多美枝 1996.10.5)

- 図 5 -

5) ハリヒメハギ *Polygala ambiguum* Nutt.

ヒメハギ科

北米原産の帰化植物。1 年草。茎は極めて細く、枝も少ない。高さ 10-30 cm。萼は白色~淡紫色で花弁のように見える。麻生区黒川駅前の宅造地の一角に数年前から生えている。ここは造成以来長年にわたって放置されているが、駅前であるため定期的に草刈りがされている。これが丈の低い繊細なこの植物が長年にわたって生育できた原因と考えられる。

標本: 麻生区黒川 (佐藤登喜子 1996.8.3)

- 図 6 -

6) セイヨウヒキヨモギ *Parentucellia viscosa* (L.)

Caruel. ゴマノハグサ科

地中海沿岸原産の帰化植物。1 年草。枝分かれは少なく、高さ 10-50 cm。全草に白色の毛と腺毛を密生し粘る。半寄生植物。出口 (1976) 神奈川帰化植物に横浜港の記録があるがその後確認されていなかった。今回採集された個体は高さ 28cm。集落の空き地で 1 株みつけた。

標本: 麻生区上麻生 (三) (佐藤登喜子 1997.7. 10)

- 図 7 -

2. 神奈川県レッドデータ植物

神奈川県レッドデータ生物調査報告書 1995 (以下報告書) にとりあげられている種のうち、今回の調査により川崎市域で見つかったものについて触れる。なお総合評価は神奈川県全域での状況、多摩丘陵は多摩川と境川に挟まれた北西方の東京都八王子市から南東方の横浜市円海山までの丘陵地での状況をあらわす。

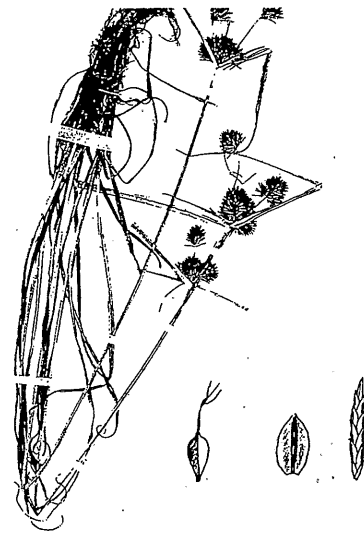


図 5 ユメノシマガヤツリ

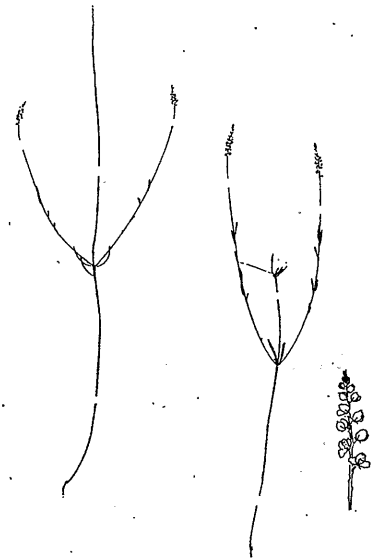


図 6 ハリヒメハギ

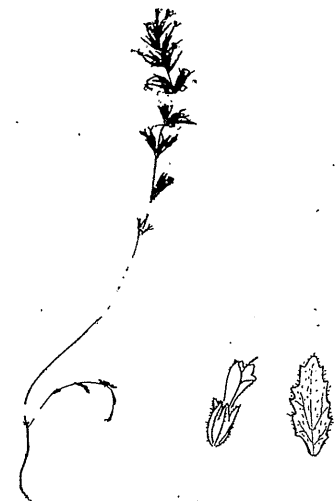


図 7 セイヨウヒキヨモギ

1) オオアカウキクサ *Azolla japonica* Franch. et Sav. アカウキクサ科

報告書の総合評価：減少種。多摩丘陵：絶滅危惧種。水田，水路，溜め池に生育する1年生の水草。以前は普通に見られていたが生育地の減少，農薬の影響などで急激に減少したと考えられている。今回採集したものは多摩川の河川敷の，常時水があると思われる水たまりにウキクサ・アオウキクサと混生していた。

標本：高津区瀬田（吉田多美枝 1996.9.7）

2) カンエンガヤツリ *Cyperus exalatum* Retz. var. *iwasakii* (Makino) T. Koyama カヤツリグサ科

総合評価：減少種。多摩丘陵：減少種。

河川敷や湿地に稀に生える大型の1年草。高さ80-120cm。県植物誌（1988）に多摩区・高津区・中原区の記載があり，いずれも多摩川となっている。今回，多摩区・高津区は多摩川で確認できたが中原区では未確認である。

標本：高津区瀬田（吉田多美枝 1996.9.7）・多摩区菅野戸呂（吉田多美枝 1996.10.13）

3) イセウキヤガラ *Scirpus planiculmis* Fr. Schm. カヤツリグサ科

総合評価：減少種。多摩丘陵：減少種。

コウキヤガラと混同していたとされるが，小穂が1個で苞が直立するタイプのもので，河口や湾内などの塩分の多い湿地にはえる。県植物誌（1988）には，県内で多摩川河口のみで確認されたが，その後三浦半島でも見つかっている。今回の調査においても多摩川河口の，満潮時に水没する干潟で群生を確認できた。

4) ホシクサ *Eriocaulon sieboldianum* Sieb. et Zucc. ホシクサ科

総合評価：減少種。多摩丘陵：絶滅危惧種。

湿地や水田に生える1年草。高さ4-10cm。葉は長さ2-8cm，巾1-2mm。かつては県内の水田に普通にみられたと推定されているが現在では稀になった。多摩区黒川の水田の一部に散発的にみられた。

標本：麻生区黒川（平川恵美子 1996.11.14）

4) ヒシ *Trapa bispinosa* Roxb. var. *iinumai* Nakano アカバナ科

総合評価：絶滅危惧種。多摩丘陵：絶滅危惧種。

池や沼に生育する一年生の水草。日本全土に分布するが神奈川県内には植物誌（1988）で大磯・横須賀・川崎市多摩区に分布するのみである。今回，古くから灌漑用の溜め池として利用していた麻生区の池で確認した。以前は水面を覆い尽くすほど繁茂していたが，現在はオオカナダモが繁殖したためか減少した。

標本：麻生区早野（園田明子 1997.7.7）・麻生区早野（平川恵美子 1997.8.5）

註 麻生区は分区前は多摩区に含まれていたため今回の採集地は植物誌（1988）と同一地点と考えられる。

5) ヒメトラノオ（前出）ゴマノハグサ科  
総合評価：減少種。多摩丘陵：絶滅種。

報告書に横浜市上川井・川崎市登戸の記録があるが，

多摩丘陵域のこれらの産地では絶滅したとされている。今回の調査でみつかった生育地，麻生区黒川は未記録の地域である。標本：前出

7) バアソブ *Codonopsis ussuriensis* (Thunb.) A.D.C. キキョウ科

総合評価：絶滅危惧種。多摩丘陵：絶滅危惧種。山地の林下に生える多年生の蔓植物。ツルニンジンに似るが花も葉も小型で，葉の裏に白毛が多い。県植物誌（1988）では相模湖・緑区にのみ記載されている。また報告書では多摩丘陵では，すでに絶滅したとされている。

標本：麻生区古沢（佐藤登喜子 1996.8.5 丘陵地の畑の道路法面）

註 同所ではその後1997年・1998年に生育が確認されている。 - 図8 -

8) その他

川崎市自然環境報告書Ⅲ：99-118 川崎市生田緑地の種子植物目録 吉田多美枝・科野有紀（1994）に記載の植物

トウゴクヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A.Br. et Bouche var. *harimense* オモダカ科

トキホコリ *Elatostema densiflorum* Franch. et Savat. イラクサ科

タミノカンアオイ *Heterotoropa muramatui* (Makino) F. Maekawa var. *tamaensis* (Makino) F. Maekawa

ウmanoszugusakiko マキノスミレ *Viola violacea* Makino var. *makino*

Hiyama スミレ科  
ナツハゼ *Vaccinium oldhamii* Miq ツツジ科

### 3. 分布域に問題のある植物

自然の植物分布から大きくかけ離れており，川崎市内には何らかの人的要因で入ったと考えられる植物。

1) カラハナソウ *Humulus lupulus* L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. アサ科

葉は卵円形または3中裂する多年生の蔓植物。分布域は本州中部以北の山地で，神奈川県ではまれ。県内では比較的自然状態のよい数カ所に記録がある。川崎で見つかったものは，交通量の多い府中県道沿いのフェンスにからんでいた。以前多摩区役所の仮庁舎が建てられていた場所なので，工事のために持ち込まれた土に混ざって運ばれたと考えられる。

標本：多摩区登戸（吉田多美枝 1997.10.）

2) オオイタドリ *Reyoutria sachalinensis* (Fr. Schm.) nakai ; *Polygonum sachalinense* Fr. Schm. タデ科

山野に生える大型の多年草。葉は長さ15-30cm 巾10-20cm と大型で，裏面は粉白色。分布域は本州中部以北。神奈川県での記録はない。麻生区の道路法面で多数生育していたが，現在，麻生区上麻生（一）の生育地は工事のため無くなり，上麻生（二）を残すのみとなった。造成のための客土によるものと考えられる。

標本：麻生区上麻生（一）（佐藤登喜子 1996.7.20）

・麻生区上麻生（二）（高橋英 1996.11.10）

3) シマニシキソウ *Euphobia hirta* L.

トウダイグサ科

暖地の耕作地・路傍・荒地などに生える熱帯アメリカ原産の1年草。茎や葉に開出した固い毛が多い。近畿以西に分布する。神奈川県では1956年に採集されたのみである。

標本：麻生区下麻生（平川恵美子 1997.10.10 丘陵地の道路法面）

#### 4. 県内に分布の少ない主な植物

県内に分布の少ない主な植物のうち、県植物誌(1998)で一地区のみの記載のものについては詳記する。

##### 1) 在来種

ハイチゴザサ *Ischne nipponensis* Ohwi イネ科

ハマガヤ *Diplachne fusca* Beauv. イネ科

クロムヨウラン *Lecanorchis nigricans* Honnda ラン科

葉緑素を持たない腐性植物。茎は細く堅い。高さ20～40cm。茎、花とも暗紫色。緑区のみ分布であったが、多摩区の生田緑地のほか、麻生区でも見つかった。

標本：麻生区古沢（高橋英 1996.7.1）

ゴマノハグサ *Scrophularia buergeriana* Miq.

ゴマノハグサ科

ゴキヅル *Actinostemma lobatum* (Maxim.) Maxim. ウリ科

ウリ科

##### 2) 外来種

キシウスズメノヒエ *Paspalum distichum* L. イネ科

イネ科

クサビガヤ *Sphenopholis obtusata* Scribn. イネ科

北米原産の1年草。クサビガヤの和名は森茂弥により鶴見（森茂弥 1981.6.6）採集のものにつけられた。鶴見のみの分布であったが、東扇島の埋め立て地の湿地に群生していた。この生育地は現在は建物ができ消滅した。標本：川崎区東扇島（吉田多美枝 1996.10.7 海岸の埋め立て地）

ナンカイヌカボ *Agrostis avenjacea* Gmel. イネ科

ショクヨウガヤツリ *Cyperus esculentus* L. カヤツリグサ科

カヤツリグサ科

ノハラツメクサ *Spergula arvensis* L. ナデシコ科

ウロコナズナ *Lepidium campestre* (L.) R.Br. アブラナ科

アブラナ科

ヨーロッパ原産の帰化植物。高さ15～60cmの1～2年草。全株に短毛を密生する。角果の表面に鱗片状突起が密にある。分布は港南のみであった。

標本：麻生区栗平（佐藤登喜子 1996.7.20 集落の路傍）

— 図9 —

アメリカツノクサネム *Sebania exalata* Rydb. マメ科

マメ科

キダチミカンソウ *Phyllanthus niruri* L. ssp.

*amarus* Leandri

トウダイグサ科

熱帯アメリカ原産と考えられている帰化植物。高さ

10～50cmの1年草。コミカンソウに似るが、果実に柄があり、表面は平滑。県植物誌(1988)では鎌倉で高さ10cm程の貧弱な個体が1点採集されたのみとある。今回採集したものは、高さ50cmの立派な個体で、



図8

バアソブ

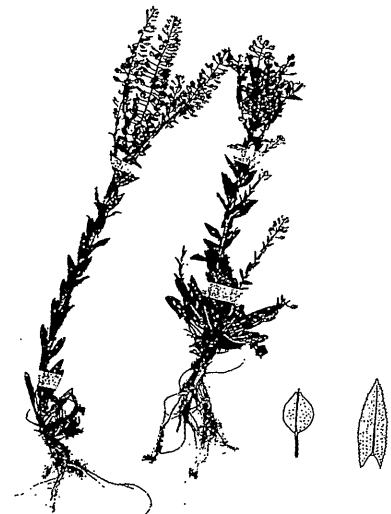


図9

ウロコナズナ



図10

ゴウシュウアリタソウ

広い道路の脇のゴミ集積所の隅に群生していた。  
標本：多摩区東生田（三）（吉田多美枝 1997.8.2）  
フラサバソウ *Veronica hederaefolia* L.

ゴマノハグサ科

5. 1988年以降急速に分布域を広げた帰化植物

1) ゴウシュウアリタソウ *Chenopodium carinatum*

R. Br. アカザ科

オーストラリア原産の強い臭いのある1年草。茎の長さ20~40cm, 一般に斜状又は地を這い, よく分枝する。県植物誌(1988)では, 川崎区・幸区に記録があるが, 県内の分布は少なく“稀”であった。小型の植物で, 路傍などに単独で生え, 乾いた固い土の上で埃だらけになり, 萎縮した状態で張りついているものが多いため見落とす恐れがある。川崎市内では各区に分布している。

—図 10—

2) マメカミツレ *Cotula australis*(Siber)hook.fil

キク科

オーストラリア原産の1年草。高さ5-25cmの茎は地面を這う。葉は細かく裂ける。頭花は黄緑色で柄の先に1個ずつ付き, 径5-8mm。暖地では路傍に普通にみられるとされているが, 1988年には県内分布は10ヶ所余りで少なかった。小型で目立たない植物のため注意が必要だが, 大きな道路の街路樹の下の植え込みの縁などにしばしばみかけられる。ほとんど一年中花を付けるが, 冬が観察の適期と考えられる。川崎市内：各区。

3) ウラジロチチコグサ *Gnaphalium spicatum* Lam.

キク科

1~2年生の帰化植物。ロゼット葉で冬を越す。葉の表面は艶のある緑色, 裏面は寝た綿毛におおわれて著しく白い。1988年には乾いた路傍にかなり普通とあったが, その分布は県東部に限られていた。川崎市内にもその分布はあったが量的には, 気にすれば見つかる程度であった。乾燥にも過湿にも強く, 冬場のロゼットは広く地をおおい他の植物の進入を許さないため, 繁殖力はいちじるしく強い。現在では至る所でみられ, 量的にも多い。川崎市内：各区。

4) アメリカオニアザミ *Cirsium vulgare*(Savi)Ten.

キク科

ヨーロッパ原産の2~3年草。高さ20-100cm, 茎にはひれがあり, 葉とともに鋭い刺をもつ。1988年には分布は横浜・川崎に限られていたが, 現在では県内各所でみられる。川崎市内でも急激に増加し, 路傍・空き地・駐車場の舗装面の隙間などその生育地は確実に広がっている。川崎市内：各区。

VI おわりに

1. 本調査の問題点

採集に当たる人員が少ないことが第一の問題点と考えられる。正確な調査結果を得るためには, 多くの人員で調査地を季節ごとにくまなく歩くことが必要であるが,

調査者が多摩区・麻生区の住民にかたよったため, 他地区での調査活動の回数が少なく, 採集に漏れた植物も多いと思われる。また川崎市青少年科学館企画の特別展の展示物の制作・生田緑地の植物ガイドブック制作などの行事が重なり, その準備に時間を割いたため資料の整理が大幅に遅れているのが第二の問題点と思われる。

2. 今後の課題

神奈川県植物誌(2001)の補充調査は1999年で一応の区切りになる。今回は川崎市内の調査が精力的に行われたので県植物誌(1988)当時に比べて格段に多くの種の確認ができた。その結果として多くの注目を要する種が見つかった。しかし現地調査にたずさわる人員が少ないため, 多くの有るはず種・確認されなかった種が残されると思われる。川崎市植物誌を充実したものにすることも, これらの種の洗いだしが最も重要な課題となるであろう。県植物誌の補充調査終了後も息長く地道な活動を続けて行きたい。

謝辞

筆者の同定できなかった一部の標本は県立生命の星・地球博物館の高橋秀男, 勝山輝男, 木場英久の諸先生に同定していただきました。川崎市民調査団植物班の吉永陽一, 渡部富子両氏には標本の引出しをしていただきました。また同植物班の班員の方々のお陰で標本の整理が順調に進んでいます。お世話になりました多くの皆様に心からお礼申し上げます

参考文献

- 神奈川県植物誌調査会編, 1988. 神奈川県植物誌 1988. 神奈川県立博物館.  
神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書植物編: 13-102pp, 神奈川県立生命の星・地球博物館.  
浅井康宏, 1994. 最近日本に渡来した帰化植物(2) ヌメノシマカヤツリグサ, 自然誌研究雑誌(5): 29-36pp.  
小崎昭則, 1991. 神奈川県産の植物補遺(1), FULORAKANAGAWA: 303-309pp, 神奈川県植物誌調査会.  
長田武正, 日本帰化植物図鑑, 1975. 北隆館.  
長田武正, 原色日本帰化植物図鑑, 1977. 保育社.  
佐竹義輔・大井次三郎他, 日本の野生植物, 草本1~3 1984. 平凡社.  
長田武正, 増補 日本イネ科植物図譜, 1994. 平凡社.  
北村四郎・村田源他, 原色日本植物図鑑, 草本1~3 1977. 保育社.  
吉田多美枝・科野有紀, 川崎市生田緑地の種子植物目録, 川崎市自然環境調査報告 III: 99-118pp, 川崎市青少年科学館.  
江東区, 続江東区の野草(2), 1986: 176pp, 江東区総務部広報秘書室.